

2022B 期における SPring-8/SACLA ユーザー要望等について

登録施設利用促進機関

公益財団法人高輝度光科学研究センター
利用推進部

SPring-8 および SACLA では、各ビームタイム終了後に実験グループごとに「ビームタイム終了届」を提出いただいております。ビームタイム終了届には、次の利用者へのアドバイスや施設に対する要望、提案等を記入いただいております。

2022B 期における要望等の状況は下記のとおりです。これら要望等と、それに対する施設側の回答（内容により、必ずしも全てではありません）につきましては、User Information で公開されています。

1. 2022B 期 要望等全体概要

2022B 期	実施課題数	利用実験数 (報告書数)	うち、要望等コメントがある ^{*1} 報告書数		
			技術的 要望等	施設他 要望等	その他 (お礼)
SPring-8 共用BL	909	1,380	35	41	118
SACLA 共用BL	50	53	6		

^{*1} 「なし」「None」等のコメントを除く。

<SPring-8 共用 BL 技術的要望等 (計 35 件) の研究分野/手法^{*2} 別内訳>

分野 手法	生命科学 医学応用	物質科学 材料科学	化学	地球・ 惑星科学	産業利用	ビーム ライン技術
小角・広角散乱		3				
X線回折 (単結晶)		3	2			
X線回折 (粉末)		2				
X線回折 (高圧)		2	1	1		
汎用 XAFS・ 汎用 MCD						2
光電子分光		4				
赤外分光		1				
イメージング					1	
非弾性散乱		1				
構造生物学	2					
産業利用					1	
その他 (持込 装置利用)		1				
成果専有等		4	2		2	

^{*2} 課題申請時の利用者申告ベース。

2. 2022B 期 要望等の内容 (一部抜粋)

(1) 技術的要望等

○ヘリウムを使用して非常に良いデータを効率よく収集することができました。ありがとうございます。現在使用できるビームは 50(v) × 20(h) μm² が最大ですが、高分解能のデータ収集では大きめ

の結晶を使用する関係で、100 × 20 μm²あるいはさらに広いビームサイズが利用できると大変ありがたいです。ご検討よろしくお願いたします。

【生命科学/構造生物学】

○試料スキャンが二次元で可能になったため、有効な試料位置の探索が非常に効率よくできるようになった。嬉しい悲鳴のようなものであるが、測定者にとっては試料準備が間に合わないほどの効率で測定できている。(要望・提案ではなく感想です)

【物質科学・材料科学/小角・広角散乱】

○液体ヘリウム価格の高騰にともない研究費が圧迫されています。回収設備を構築するか、振動を抑えた循環型のクライオスタットに置き換える等の対策を講じていただき、あらゆるユーザーにフレンドリーなビームラインになることを切に願っています。このままヘリウムの価格が研究費を圧迫するようになると、折角 SPring-8 で立ち上げてきた共鳴 HAXPES 計測が先細りしてしまいそうで危機感を覚えています。

【物質科学・材料科学/光電子分光】

(2) 施設その他要望等

○交流施設 A 棟はコンセントの位置 (ポット用のコンセントが床置きのみ) や数 (机まわりにコンセントがなく、デスクワークができない、充電ができない) が足りないと感じました。

○研究交流施設にまたテレビを設置してほしい。食堂のメニューが年々劣化してきているように感じるので改善してもらいたい。コンビニでおにぎりなどの品数が少なく、夕方頃に行くと全て売切れてしまっているの、改善してもらいたい。

○He 代の高騰と予定にない価格変更のため予算計画が圧迫されてしまいました。BL09XU の高エネルギー分解能測定を実施するためには低温測定が必須です。再凝縮器 (液化機) や He 回収ライン、さらには将来的な低温センターの整備について、是非ご検討いただけますと幸いです。

